虫供養当日を迎えるまで

虫供養当日（秋分の日）の百万遍念仏会が終了すると、次の地区に引き継ぎが行われ、その後1年をかけて虫供養に関するさまざまな行事を行います。

椋岡地区でも昨年の秋分の日に引き継ぎを受けてから、今回の虫供養に向けて住民が協力し、次の行事を行ってきました。

①引き継ぎ式

引き継ぎを受ける地区と引き渡す地区が丁寧に台帳を確認しながら、慎重に品物を箱に収納します。服装は正装で行われます。昔は紋付羽織袴でした。

②お紐解き

品物を引き継いだ地区が、品物を確認し、よく乾燥させて収納します。

③寒干し

1月の寒中に行われ、大切に保管されている掛け軸などを寒風にさらすとともに、同行衆による百万遍念仏会を行います。

④土用干し

7月の土用に行われ、掛け軸などに暑い夏の風を通し、カビや虫食いを防ぎ、「寒干し」同様、同行衆による百万遍念仏会を行います。

⑤大塔婆の準備

8月ごろになると、虫供養会場に建てる大塔婆の作成が始まります。大塔婆には松の木が使われます。今は、大きな松の木が取れなくて苦労しています。10mほどの松の木を削り、一文字ずつ銘文を書き入れ、根元に砂山を盛ります。

昔は白い布を巻き人の手で建てていましたが、今は重機を使うことも増えています。

地区の仲間の協力があってこそできる虫供養

実行委員長
山　内　成　一

「小さいころは、いろいろな地区の虫供養へ友達と一緒に行ったよ。露店が目当てだけどね…。楽しかった。たくさん人が集まり、一種のお祭りだったな…」と懐かしそうに振り返る山内さんは、区長の経験を生かし、地区のためならと今回の実行委員長を引き受けました。

「長い歴史がある上、地区にとっては13年に一度の大行事。自分たちの地区で絶やしたくない、恥ずかしくない行事にしたいという思いは強くある」と話す山内さん。「本番に向けた準備は順調。行事は一人ではできないから、声を掛けると、すぐに集まってくれる地区の仲間の助けが本当に大きい」と感謝の気持ちを語りました。

「次回の中心になる若手の助けがうれしい。今回の経験が13年後に生きてくれれば…。私は本番以外の資料がなくて困ったので、仲間の力を借り、次の人が困らないよう一連の流れを記録してもらっている」と次回を見据えています。

子どもたちに喜んでもらおうと少ないながらも露店をお願いし、車でも来場しやすいよう、会場の雲谷寺と地区の葬儀場の協力で駐車スペースを確保しました。「地区内はもちろん、地区以外の方にもぜひ足を運んでもらい、歴史ある行事のことを知ってもらえればうれしい。それが、行事の継承につながる」と期待を寄せていました。

間近に控える本番に向け、「小さな地区で行うのは本当に大変なので、区民一丸で頑張りたい」と力を込めました。